

科 目	生物基礎	単 位 数	3 単位	年 間 授 業 時 間	105 時間
対 象 学 年 ・ (組)	1 年 (1 組 ~ 6 組)	使用教科書 (出版社)	改訂 新編 生物基礎 (東京書籍)		
	必 修	副 教 材 等			

教 科 担 当 者	
-----------	--

指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標【年間授業計画】	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標【年間授業計画】	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標【年間授業計画】			
4 月		遺伝子の均等配分	細胞分裂とDNAの関係について学ぶ。	1 月				
		遺伝子の均等配分	細胞分裂の際にDNAが複製されることを学ぶ。		体内環境を保つ仕組み	ホルモンの性質と、内分泌腺について学ぶ。 カキを使った心拍と神経伝達物質に関する実験を行う。		
	生物の共通性	動物細胞と植物細胞の違いを学ぶ。	体内環境の維持		体内環境を保つ仕組み	血糖量の調節について理解する。		
	生物の共通性	原核生物と真核生物の細胞の違いを学ぶ。顕微鏡の使い方を学ぶ。	体内環境を調整する器官		肝臓の働きについて学ぶ。	植生の多様性	生態系における様々な生物の役割を学ぶ	
		体内環境を調整する器官	腎臓の働きについて学ぶ。	植生の多様性	森林の構造について学ぶ			
5 月	生物の共通性	顕微鏡を用いて真核細胞と原核細胞を実際に観察し、違いを学ぶ。	体内環境を調整する器官	腎臓での濃縮率について学ぶ。	植生の多様性	森林のなりたについて学ぶ		
	生命活動とエネルギー	エネルギーの取り出し方とATPのはたらきを学ぶ。	2 学期期末考査	生態系とその保全、体液のはたらき、肝臓・腎臓のはたらきについての確認。	気候とバイオーム	地球全体の気候の違いと植生の違いについて学ぶ		
	生命活動とエネルギー	酵素の働きを実験を通して学ぶ。細胞の共生説を学ぶ。	10 月	体内環境の維持	人の血球の観察を行い、体液についての知識を深め、免疫の内容へつなげる。	2 月	気候とバイオーム	世界のバイオームと日本の植生分布について学ぶ。
	1 学期中間考査	原核生物と真核生物の細胞の違い、共生説、代謝を学ぶ。	2 学期中間考査	細胞分裂とDNAの複製について、生態系における生物の役割、バイオームについて学ぶ。	生態系とその保全	生態系の物質循環について学び、保全について考える。		
	生命活動とエネルギー	呼吸と光合成では何が分解、合成されているのか学ぶ。	体内環境を守る仕組み	自然免疫について学ぶ。				
6 月	生物と遺伝子	DNA構造について学ぶ。	体内環境を守る仕組み	適応免疫の特徴。	学年末考査	免疫、自律神経とホルモンのはたらきについての確認。		
	生物の多様性と共通性	カイコの解剖から、生物の多様性と共通性を学ぶ。	体内環境を守る仕組み	細胞性免疫と体液性免疫について学ぶ。	1 年間のまとめ	生物基礎の復習		
	生物と遺伝子	DNAの構造とその性質について学ぶ。	11 月	体内環境を守る仕組み	感染症の予防と治療、免疫の異常による病気について学ぶ。	3 月		
	生物と遺伝子	タンパク質の性質について学ぶ。DNAからタンパク質合成までの流れを学ぶ。	体内環境を保つ仕組み	神経系について学ぶ。トリの脳の観察を行う。				
			体内環境を保つ仕組み	自律神経のはたらきを学ぶ。				
7 月	1 学期期末考査	生命活動とエネルギーにおける、呼吸と光合成についてと、遺伝子からタンパク質合成までの流れを確認する。	2 学期期末考査	生態系とその保全、体液のはたらき、肝臓・腎臓のはたらきについての確認。	【評価の観点・方法】	<p>〔評価の観点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的内容が的確に把握できているか。 ・ 実験観察に主体的に取り組んでいるか。 ・ 興味関心を持って授業に取り組んでいるか。 <p>〔評価方法〕</p> 授業中の態度を含む平常点、及び実験プリントなどの提出物、出席状況を配慮する。		
	生物と遺伝子	遺伝子の本体DNAの抽出実験を行い、DNAとはどのような物質かを理解する。	体内環境の維持	人の血球の観察を行い、体液についての知識を深め、免疫の内容へつなげる。				
			12 月					